

サテライトオフィスの有用性と今後の展望

図司 彩華

日本大学 法学部

キーワード：テレワーク, オンライン授業, 居場所

1 はじめに

近年、働き方改革や DX が進む中で、働く場が多様化している。新型コロナウイルス感染症の世界的流行をきっかけにテレワークを導入する企業も多く、オフィスの在り方自体が見直されている。中でも、オフィスの費用削減に大きく貢献するサテライトオフィスは、新しい職場環境の選択肢の一つとして大きな注目を集めている。今後はより多くの企業がサテライトオフィスを利用すると考えられている。

しかし、サテライトオフィスの考え方は、一元化できるものではなく、業種や従業員の住環境や企業カルチャーなど考えるべきポイントは多数存在する。

本稿では、テレワークの現状を明らかにし、学生を対象としたアンケート調査を実施し、サテライトオフィスのより良い在り方を提案するものである。学生は将来の企業を担う重要な存在であり、今後の企業の形成に大きな影響を与えると考えられる。

2 現状分析

2.1 テレワークとは

(社)日本テレワーク協会によると、テレワークとは、「情報通信技術(ICT)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方」と定義されている。テレワークの「テレ」は「遠く、離れて」という意味で、テレワークとは「(従来の固定的なオフィスから)遠く、離れて働く」ということを意味する。テレワークという働き方を実施する人をテレワーカーと呼ぶ。

また、テレワークは「tele=遠隔」で「work=働く」という意味なので、農業、医療、建設業、製造業、教育など、テクノロジーを活用して現場業務を遠隔から遂行することもそれに含まれる。

テレワークには、自宅にて業務を行う在宅勤務、顧客先や移動中に業務を行うモバイルワーク、勤務先以外のサテライトオフィスなどにて業務を行う施設利用型勤務の3つの種類が定義されている。

テレワーク導入のメリット、デメリットは数多く存在する。経営者側の主なメリットとしてオフィスコスト削減、優秀な人材の確保、企業イメージの向上、災害時の事業継続性などが挙げられる。一方デメリットとして時間管理が緩むことや長時間労働になりやすいこと、勤怠管理や人事評価が難しくなるなどの問題点が挙げられる。

一方で従業員側のメリットとしてワークライフバランスの向上、仕事と育児や介護の両立、通勤にかかる負担の軽減などが挙げられる。また、デメリットとして社外で端末を活用し業務を行うために情報漏洩等のセキュリティリスクが高まることなどが挙げられる。さらに社員同士の情報共有などコミュニケーションが減少することなど数字に表れない部分のデメリットも確かに存在することが考えられる。

2.2 サテライトオフィスとは

本社以外の場所に設置されたオフィスのことであり、本社を中心にして、衛星(サテライト)のように周囲に位置するオフィスという意味がある。

サテライトオフィスには自社専用と他社共用の2種類がある。

自社専用のメリットは社内 LAN が利用できるため、セキュリティ面での心配が少なく、社内の従業員同士で情報共有できる点などが挙げられる。

デメリットとしてはサテライトオフィスの特性上、上司や同僚と対面する機会が減るためコミュニケーションが不足してしまう可能性が高まることや、連絡事項の伝達がスムーズにいかなくなったりするこ

となどが挙げられる。

他社共用のメリットとしては起業家や個人事業主などが貸主と契約する形式を採っていることで、個人のニーズに合わせて場所を見つけることができ、気軽に利用できる環境を構築することができる点などが挙げられる。

一方デメリットとしてはセキュリティやプライバシーの確保により深い注意が求められることなどが考えられる。

また、支社とサテライトオフィスには異なる点がある。

支社は規模が大きく、全般の業務を行なうための備品整備がある。一方で、サテライトオフィスは規模が小さく、必要最低限の業務を行うための備品整備がある。

このように、規模と利用目的に違いがあり、本社や支社以外でも行える業務を対象とした小規模なオフィスがサテライトオフィスである。

2.3 政府の取り組み

総務省は2013年、「世界最先端IT国家創造宣言」を発表した。この宣言は、情報通信技術（ICT）の活用を通じて、日本を世界最先端のIT国家とするためのものである。具体的な目標には、テレワークの推進、ITインフラの整備、教育とトレーニングの充実、そして法制度の整備などが含まれている。

ここでは、テレワークの推進の点に絞って述べていく。テレワークの推進への施策として、テレワーク導入企業に対する補助金や税制優遇措置を提供することにより、初期コストの負担軽減を図っている。また、テレワークに必要な高速インターネットなどのインフラやセキュリティ対策の支援を強化することにより、どこでも安定した通信環境において都市部だけでなく地方でもテレワークが可能となっている。そして、「週1回以上終日在宅で就業する雇用型在宅型テレワーカーを全労働者の10%以上とする」という数値目標を設定し、柔軟な働き方を目指している。

加えて、テレワークの推進に向けては、サテライトオフィスの整備が有効である。住環境からアクセスのよい場所にある小規模なスペースの活用は社会的にも大きな意義がある。

3 アンケート調査

今回、学ぶ場と働く場の選択には密接な関連性があると考えた。また、オンライン授業の現状を明確にし、数値として示すため、日本大学法学部の学生123人を対象とし、アンケート調査を実施した。また、実施時期は2024年の6月17日から6月30日である。

アンケート調査にて自宅以外でオンライン授業を受けたことはあるか問うたところ、81人が「ある」と回答し、42人が「ない」と回答した。

結果から、コロナウイルスの影響でオンライン授業が広まったことで、大半の学生はオンライン授業になじみがあり、受講経験があると考えられる。

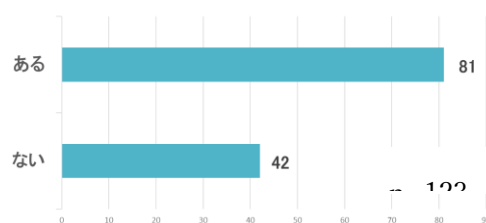


図1. 自宅以外でのオンライン授業の受講経験

また、オンライン授業を受講した場所はどこか問うたところ、「図書館」が38人、「学校」が18人、「カフェ」が15人という結果が得られた。

図書館や学校に次いでカフェを選ぶ人が多かった。

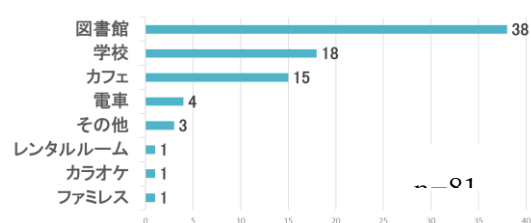


図2. オンライン授業を受講した場所

また、受講した場所を選んだ理由を問うたところ、38人が「集中できる環境だから」と回答し、21人が「長時間利用できるから」、13人が「アクセスが良いから」と回答した。

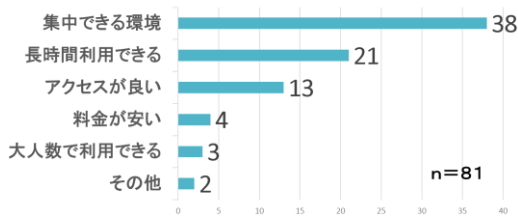


図 3. 受講した場所を選んだ理由

今回、理想の働き方について、自由記述で回答を収集した。その回答のキーワードを分析した結果、全体的に「定時退勤」など、現実的な働き方を好む傾向がみられた。特にカフェを選ぶ人は「在宅勤務可能」「フレックスタイム制」など、柔軟な働き方やリモートワークを好む傾向がみられた。

4 課題への対策

この傾向の分析のために、スターバックスに代表されるサードプレイス戦略に着目した。サテライトオフィス普及のための課題と対策について論じていく。

4.1 サードプレイスとは

サードプレイス（第三の場所）とは、自宅、学校、職場とは別に存在する、居心地のいい居場所のこと。ストレスの多い現代社会において、ストレスから解放され憩うことのできる場所の重要性をアメリカの都市社会学者レイ・オルデンバーグが説き、注目されるようになった。

サードプレイスが注目された背景としては、1989年、オルデンバーグが著書「ザ・グレート・グッド・プレイス（The Great Good Place）」の中で提唱し注目され始めた、サードプレイス。その背景には、アメリカが自動車依存型の社会であり、人々が家庭（第一の場所）と職場（第二の場所）を往復する生活に追われてしまっていたことが挙げられる。

オルデンバーグは、ヨーロッパではパブやカフェが、飲食目的のみではなく人々が自由に交流する場として重要な役割を果たしていることに着目した。加えて、1980年代当時、ヨーロッパではスローフード運動が展開されており、スローフードやスロー

ライフの価値が見直され始めていたことも背景にある。

日々の生活における様々なプレイス第一の場所（ファーストプレイス）生活の基本となる自宅を指す。就寝、食事、入浴など、人間としての生命や健康を維持するために必要な場所であり、家族が共に生活をする場所でもある。家族に対する義務や責任も存在する。

第二の場所（セカンドプレイス）：職場や学校など、自宅以外に普段自分が長い時間を過ごす場所だ。経済活動や学習など、生活の糧を得るために欠かせない場所である。仕事、学業や同僚への責務が存在する。

第三の場所（サードプレイス）：義務や必要性に縛られるのではなく、自らの心に従い、進んで向かう場所。趣味や息抜きなど心安らぐ場所だ。オルデンバーグは、サードプレイスの定義として8つの条件を挙げている。

「中立性のある・すべての人に平等・会話が重視される・アクセスしやすい・常連のいる・目立たない・遊び心がある・第二の家となる」サードプレイスの効果サードプレイスがあることで、以下のような効果があると言われている。

- ・自分らしさを体現でき、ストレスや精神的不安が軽減され、生活に潤いを与える
- ・共通の関心を持つ仲間と囲まれ、心を通わせることで、疎外感や孤独感を覚えにくくなる
- ・新しい価値観や人とのつながりを得ることができる
- ・市民活動が活発になり、文化や心の豊かさが生まれる

4.2 考察

前提として、サテライトオフィスで仕事をしている以上、完全に責務から解放されるとは言えないかもしれないが、自ら選んでその場所に行くことに意義があると考えられる。

日々の生活で、義務や責務から完全に解放されるのはなかなか難しい。テクノロジーの発達により、場所や時間を問わず仕事や学業に専念できるようになった。一方で、リモートワークが進むことで家庭と仕事場が一体化し、責務から解放される時間や場所を見つけにくくなってしまっているとも言える。

以上を踏まえると、リモートワークを好む人がカフェを選択するのは、責務から解放される場所を見つけないという理由から、サードプレイスを求めているからなのではないか。そこで、サテライトオフィスにもサードプレイ斯的要素を取り入れることで、サテライトオフィスを普及することができると考察する。

4.3 提案

サードプレイスの条件として、会話が重視されることが挙げられる。静かすぎずに適度な BGM や雑音があることで、会話しやすい環境となる。このように、サードプレイ斯的要素のサテライトオフィスを広めるべきである。

5 おわりに

生活のためだけでなく自分らしくいられるサードプレイスは、人々の健康と市民社会にとって、重要な場所であるといえる。そのようなサードプレイスの選択肢として、サテライトオフィスの普及は良い効果をもたらす。

本調査により、テレワークの現状とサテライトオフィスの課題が明確となったが、課題点に関しては 5.3 の提案を用いることで解決は可能であると考察する。

参考文献

- 〔1〕 総務省,「世界最先端 IT 国家創造宣言」,
<https://x.gd/8ODyA> ,(参照:2023-5-10)
- 〔2〕 日本テレワーク協会,「テレワーク情報」,
<https://japan-telework.or.jp/> , (参照:2023-5-10)
- 〔3〕 石山恒貴「サードプレイス概念の拡張の検討」,
<https://x.gd/tsy4T> ,(参照:2023-6-8)
- 〔4〕 佐々木康浩「テレワーク成熟度モデルの提案」,
<https://x.gd/J5DrH> ,(参照:2023-6-8)
- 〔5〕 高井映見,對馬聖菜,田辺新一「日本におけるシェアオフィス普及の背景と様態」,
<https://x.gd/tsy4T> ,(参照:2023-6-12)
- 〔6〕 柳原佐智子「大学におけるテレワーク教育の重要性」,
<https://x.gd/EvqI6> ,(参照:2023-7-14)